トウキョウ　ヒロシマ　ナガサキ

3月18日、東京都慰霊堂で開かれた「東京大空襲78年第17回朝鮮人犠牲者追悼会」に参加しました。表題は謝辞を述べられた「東京大空襲朝鮮人犠牲者を追悼する会」「東京朝鮮人強制連行真相調査団」代表の西澤清氏の言葉をお借りしました。「ナパーム弾のトウキョウ、ウラニウムのヒロシマ、プルトニウムのナガサキ」と言われました。１９４５年3月10日未明、グアム・テニアン・サイパンを飛び立った３００機超のＢ29は編隊を組み、１５００メートルという超低空で東京に侵入、1時間足らずで集束焼夷弾６５００個を投下、ゲル状ナパームガソリンを噴射し、街を焼き尽くしました。犠牲者10万人の無差別爆撃でした。

強制連行され、軍需関連工場で働かされていた朝鮮人労働者はカギのかかった宿舎（脱走防止）から逃げることもできないままで建物は炎上しました。犠牲者は「少なくとも1万人を軽く超す」とされていますが、日本政府は実態を明らかにしていません。創氏改名され、日本人の名前の「半島労務者」にされていました。空襲の指揮はカーチス・ルメイ将軍、12日名古屋、13日大阪への爆撃と続きました。将軍はその後、朝鮮戦争でピョンヤン爆撃を指揮しました。ところが日本政府はルメイ氏に１９６４年12月7日、勲一等旭日大綬章を与えました。

私の母は当時、浅草区に住んでいて21歳でした。両親と日暮里の山に逃げ、命は助かりましたが、家と家財を失いました。

労働大学企画編集委員　富山　栄子